



イノベーションで先へ行く!走れ!未来へ
ON THE RUN!

エラストマーで新事業の領域へ。
そこは時代の少し先にあります。

●医療機器・ヘルスケア機器 ●電子資材 ●新ソリューション

2023年3月期第2四半期 決算概要

2022年11月9日

バンドー化学株式会社

-
- I . 2023年3月期第2四半期 決算概要
 - II . 2023年3月期 業績予想

I . 2023年3月期第2四半期 決算概要

2023年3月期第2四半期 決算概要

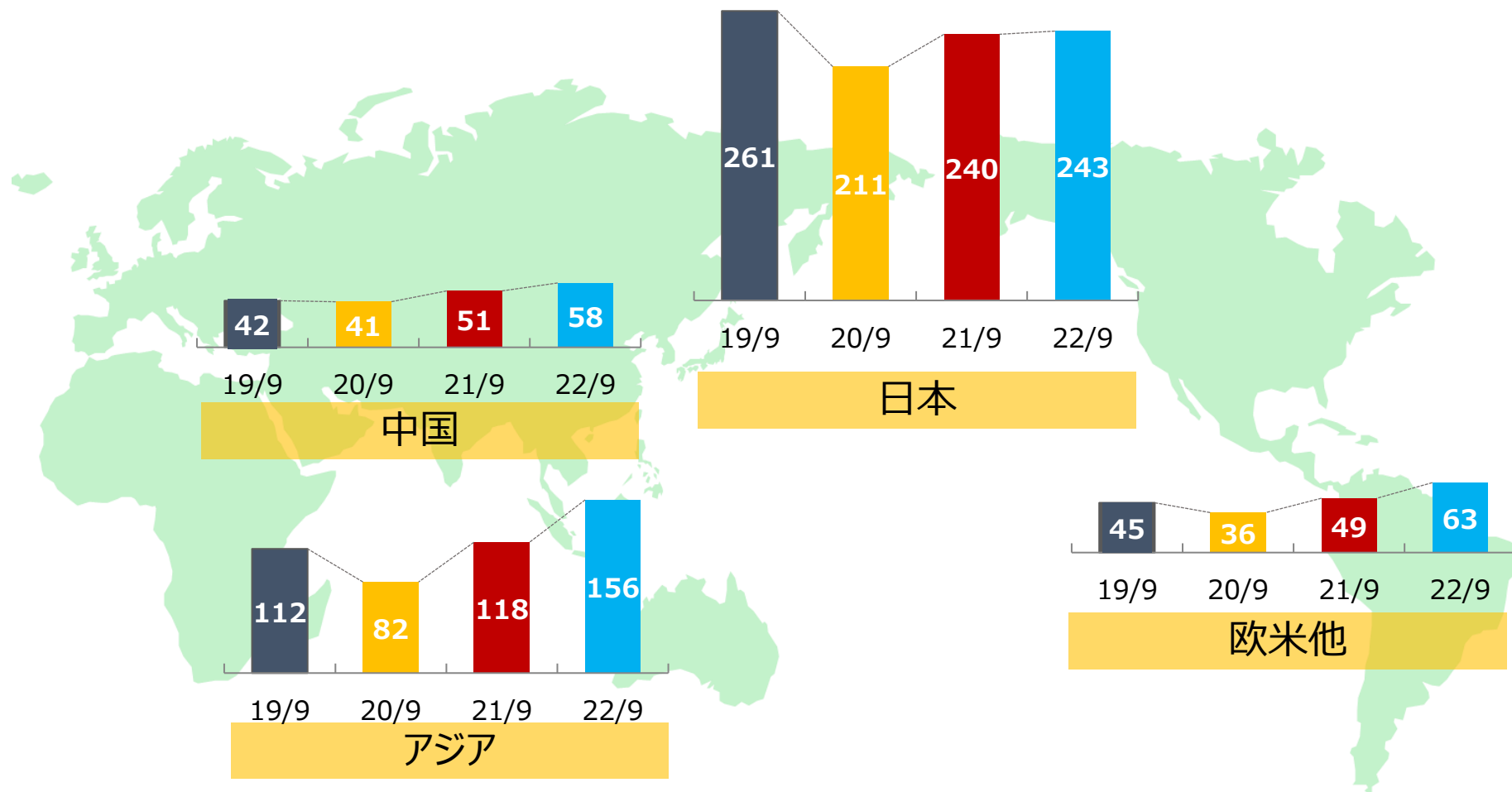


(単位：百万円、%)

		2021/9	2022/9		2023/3	
		実績	実績	前期比	業績予想値 (2022/11/9)	達成率 (対業績予想値)
売上収益		46,144	52,200	+6,056	101,000	51.7%
コア営業利益		4,376	3,648	△727	7,000	52.1%
コア営業利益率		9.5%	7.0%	△2.5%	6.9%	
営業利益		4,847	4,371	△475	7,500	58.3%
税引前当期利益		5,077	5,402	+325		
親会社の所有者に帰属する四半期利益		3,798	3,568	△230	5,400	66.1%
為替レート	USD	110.12	135.30		135.00	
	THB	3.41	3.79		3.70	
	人民币	17.08	19.91		19.50	

2023年3月期第2四半期 所在地別売上収益

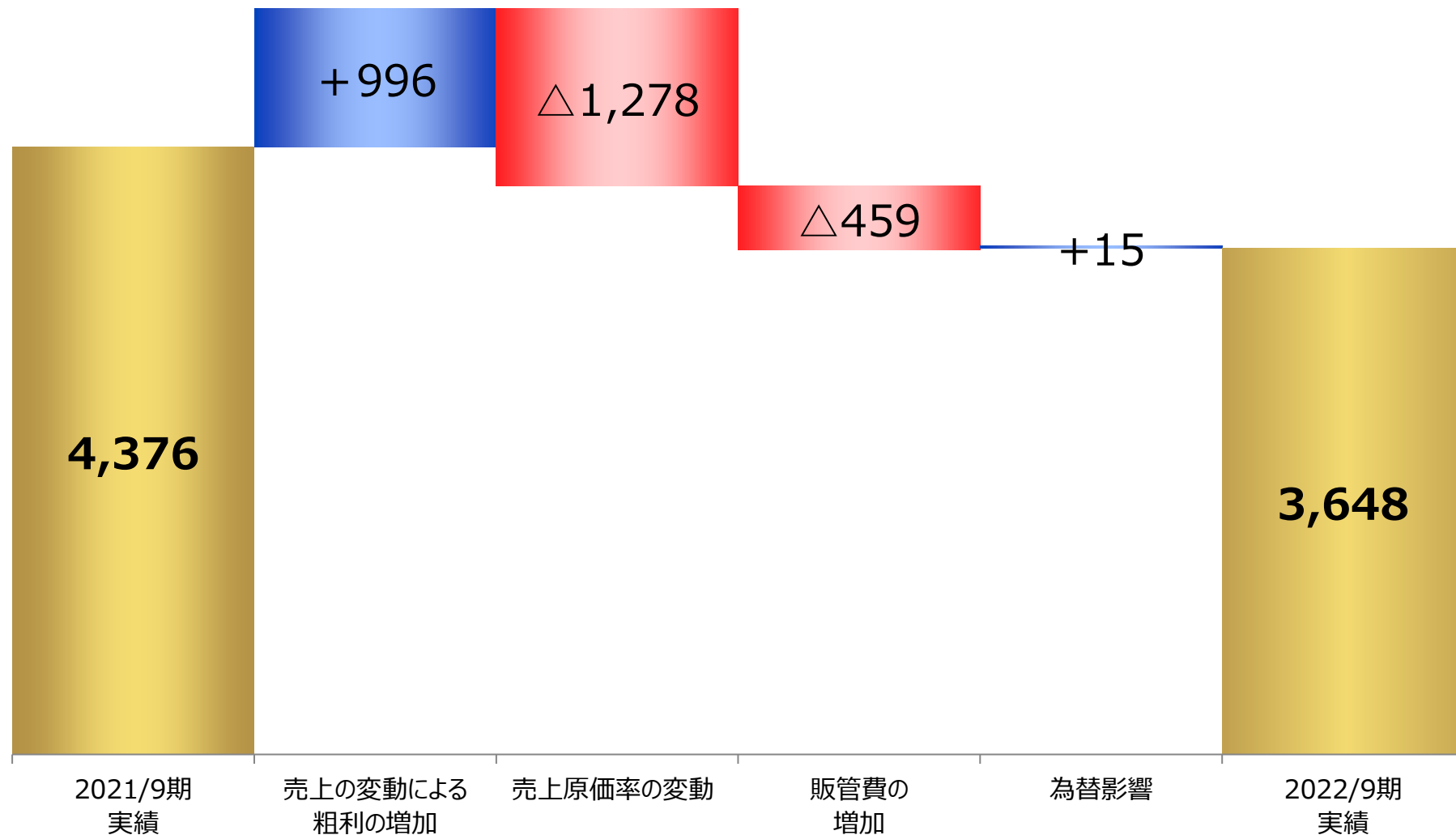
(単位：億円)



(注)所在地別売上収益はセグメント間取引消去後。

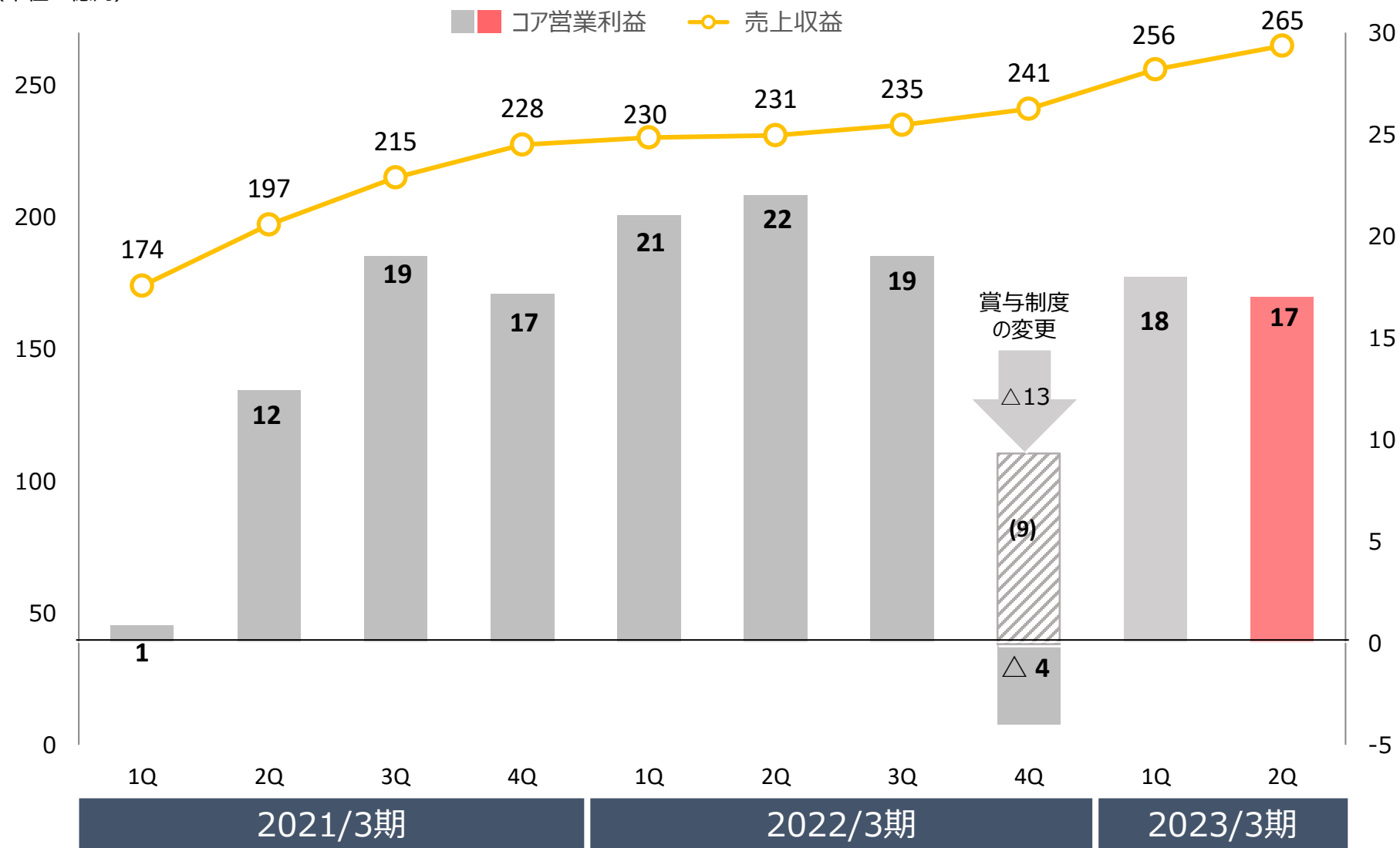
2023年3月期第2四半期 連結コア営業利益 増減分析 **BANDO**

(単位：百万円)



四半期推移 (売上収益/コア営業利益)

(単位：億円)



2023年3月期第2四半期 セグメントの状況

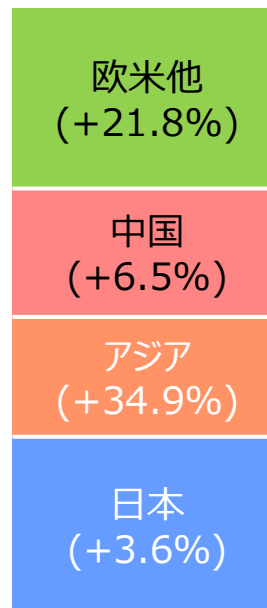
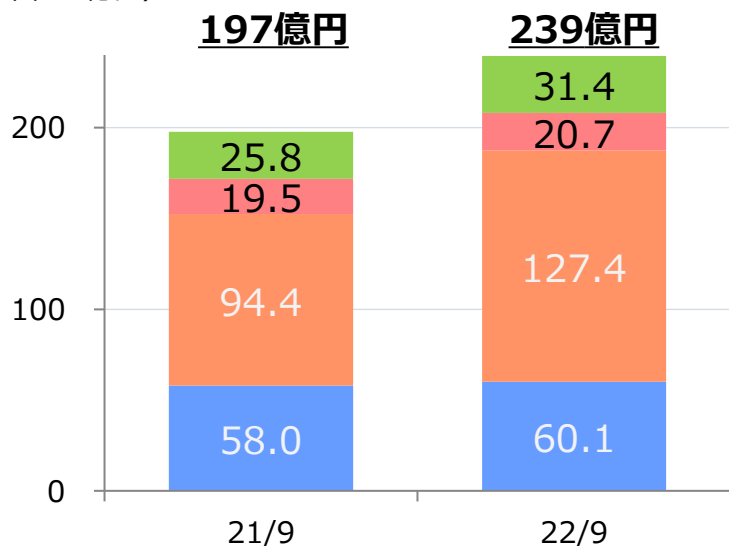


(単位：百万円)

	2021/9	2022/9		
	実績	実績	増減額	増減割合
売上収益	46,144	52,200	+6,056	+13.1%
自動車部品事業	19,793	23,993	+4,199	+21.2%
産業資材事業	17,163	18,586	+1,423	+8.3%
高機能エラストマー製品事業	7,042	7,539	+497	+7.1%
その他	2,581	2,449	△131	△5.1%
セグメント間消去	△436	△368	+68	-
コア営業利益	4,376	3,648	△727	△16.6%
自動車部品事業	1,667	1,535	△132	△7.9%
産業資材事業	1,954	1,898	△55	△2.9%
高機能エラストマー製品事業	413	241	△172	△41.6%
その他	147	△12	△160	-
セグメント間消去等	192	△14	△206	-

所在地別売上収益

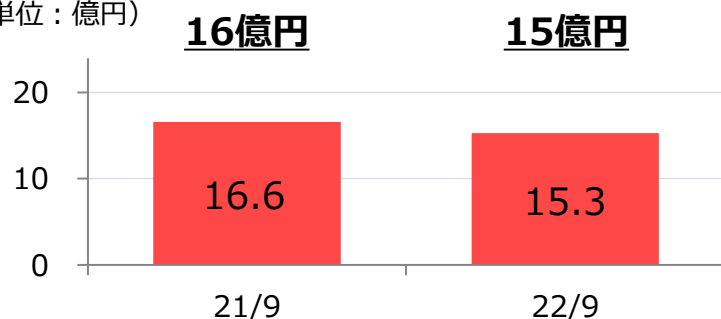
(単位：億円)



- 米国において主要顧客の減産により、補機駆動用伝動ベルトなどの販売が外貨ベースで減少。
- 欧州地域において新規顧客の開拓による補修市場向け製品の販売が増加。
- 主要顧客の減産により、補機駆動用伝動ベルトなどの販売が外貨ベースで減少。
- 自動車生産台数の増加により、販売が増加。
■ 二輪車用変速ベルトの販売も増加。
- 自動車生産台数は減少したものの、補機駆動用伝動ベルトおよび伝動システム製品の販売が前年並みとなった。

コア営業利益

(単位：億円)



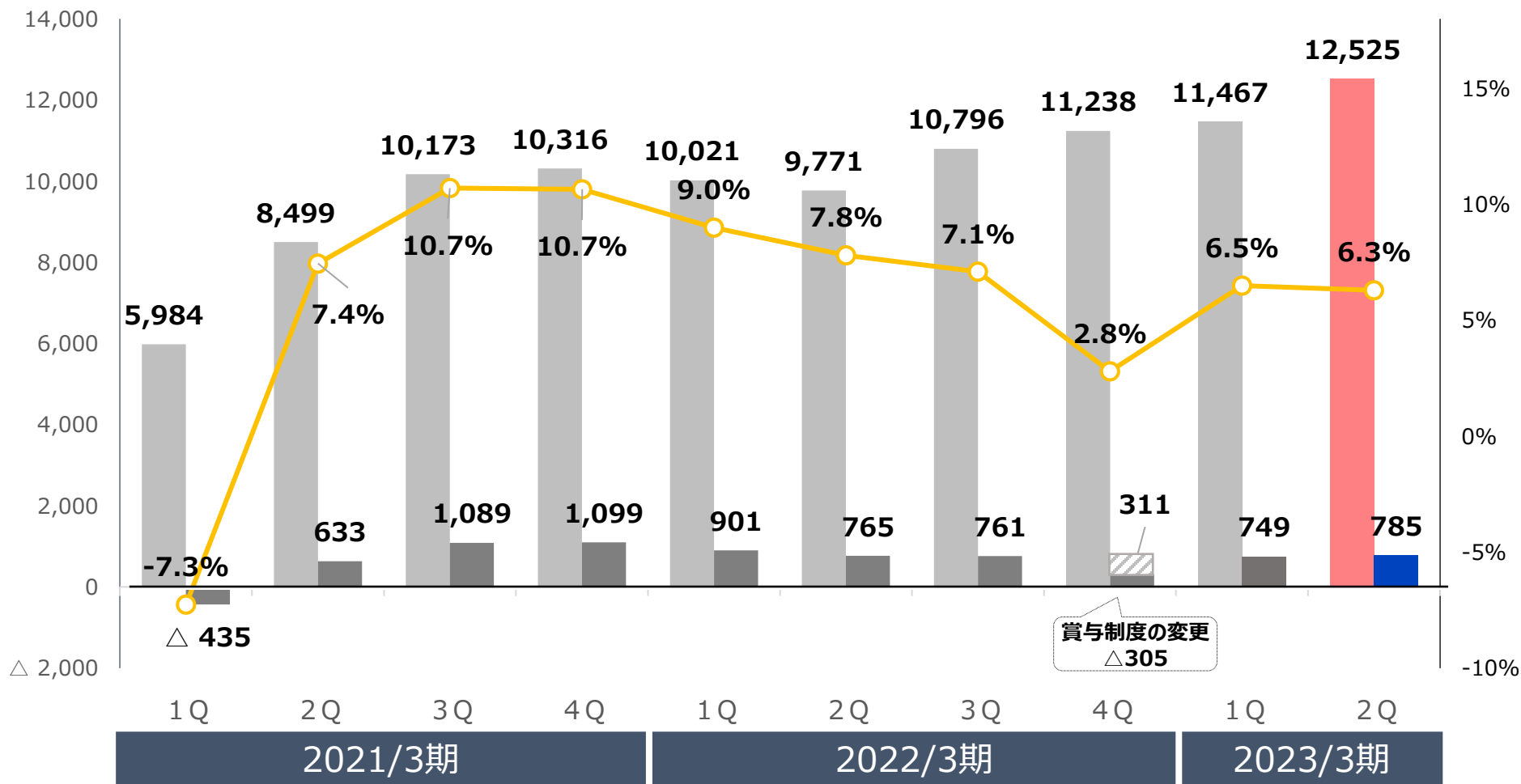
コア営業利益
(△7.9%)

- 販売は増加するも、原材料調達価格の高騰の影響もあり、利益は減少。

自動車部品事業 四半期推移

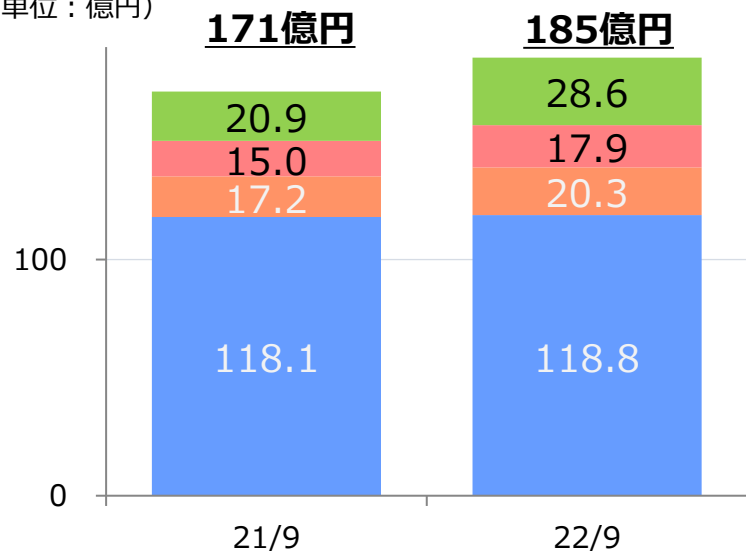
(単位：百万円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益 ○ 営業利益率



所在地別売上収益

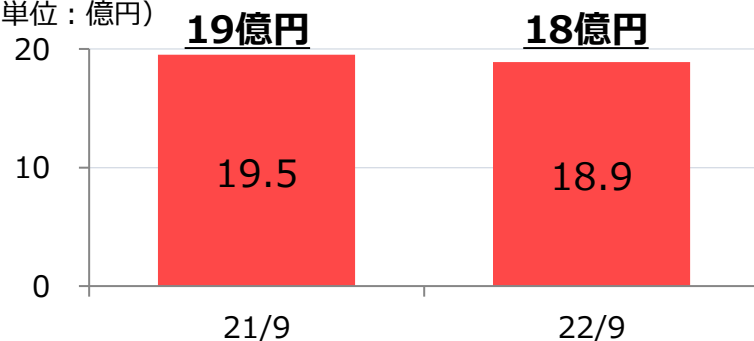
(単位：億円)



欧米他 (+36.4%)	■米国・トルコにおいて、産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
中国 (+19.3%)	■農業機械用ベルトなどの販売が増加。
アジア (+18.2%)	■産業機械用伝動ベルトなどの販売が増加。
日本 (+0.6%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間設備投資の増加により、産業機械用伝動ベルトの販売が増加したことに加え、農業機械用ベルトの販売も増加。 ■ 樹脂コンベヤベルトの販売が増加したが、コンベヤベルトの販売が減少。

コア営業利益

(単位：億円)

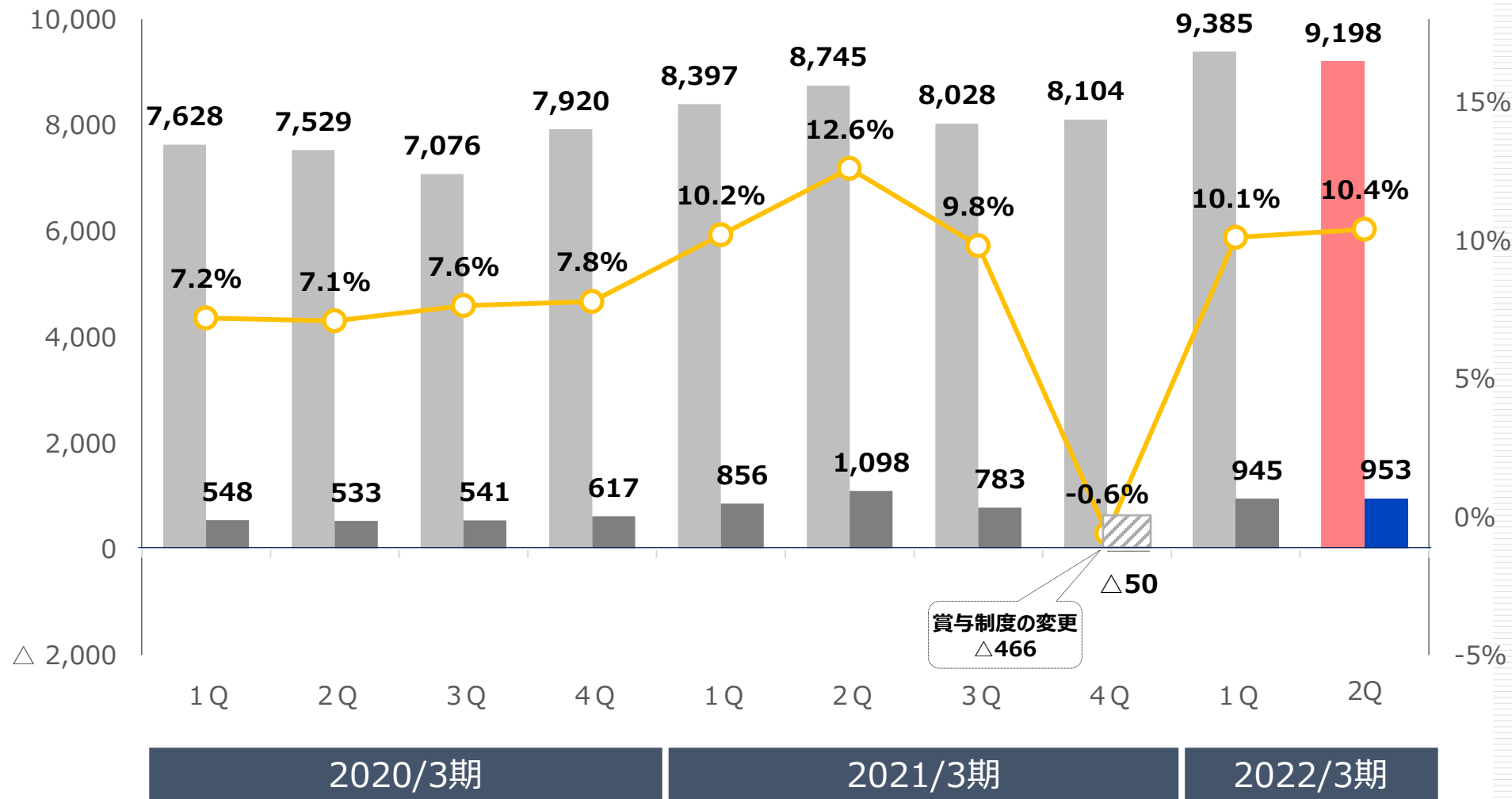


コア営業利益 (△2.9%)	■ 販売は増加するも、原材料調達価格の高騰の影響もあり、利益は減少。
-------------------	------------------------------------

産業資材事業 四半期推移

(単位：百万円)

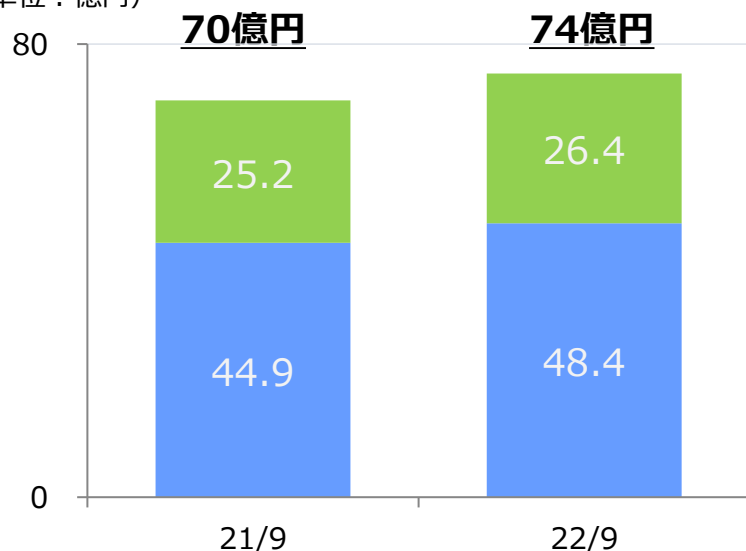
■ 売上収益 ■ セグメント利益 ○ 営業利益率



高機能エラストマー製品事業 概要

事業別売上収益

(単位：億円)



機能フィルム
(+4.7%)

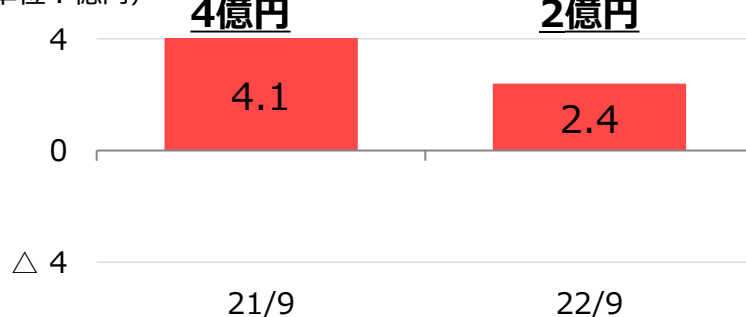
■国内において非住宅関連の需要が回復したこともあり、建築資材用および工業用フィルムの販売が増加。

精密機能
部品
(+7.9%)

■主要顧客の生産回復もあり、精密ベルト、高機能ローラおよびブレードなどの販売が増加。

コア営業利益

(単位：億円)



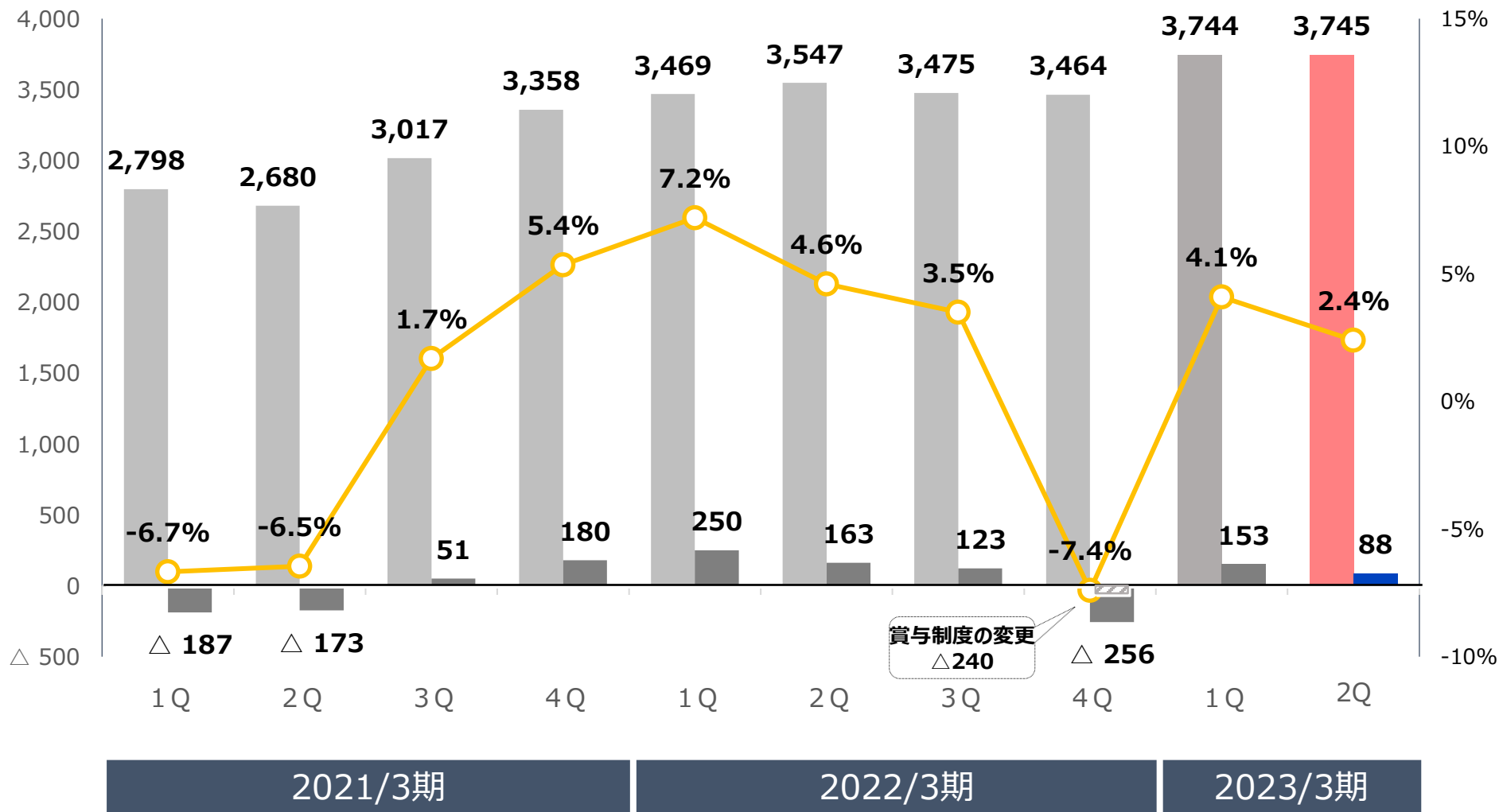
コア営業利益
(Δ 41.6%)

■販売は増加するも、原材料調達価格の高騰の影響もあり、利益は減少。

高機能エラストマー製品事業 四半期推移

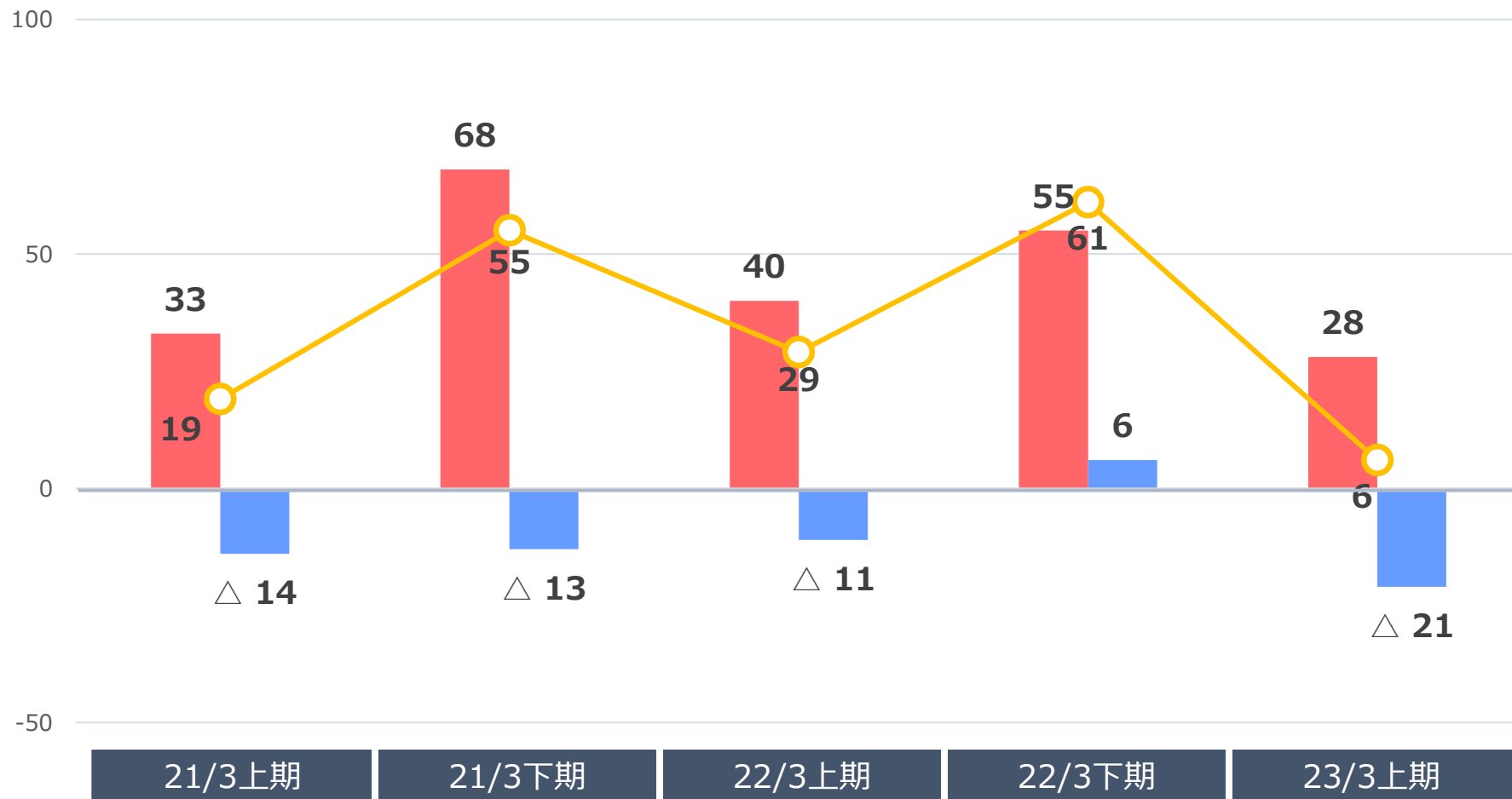
(単位：百万円)

■ 売上収益 ■ セグメント利益 ○ 営業利益率



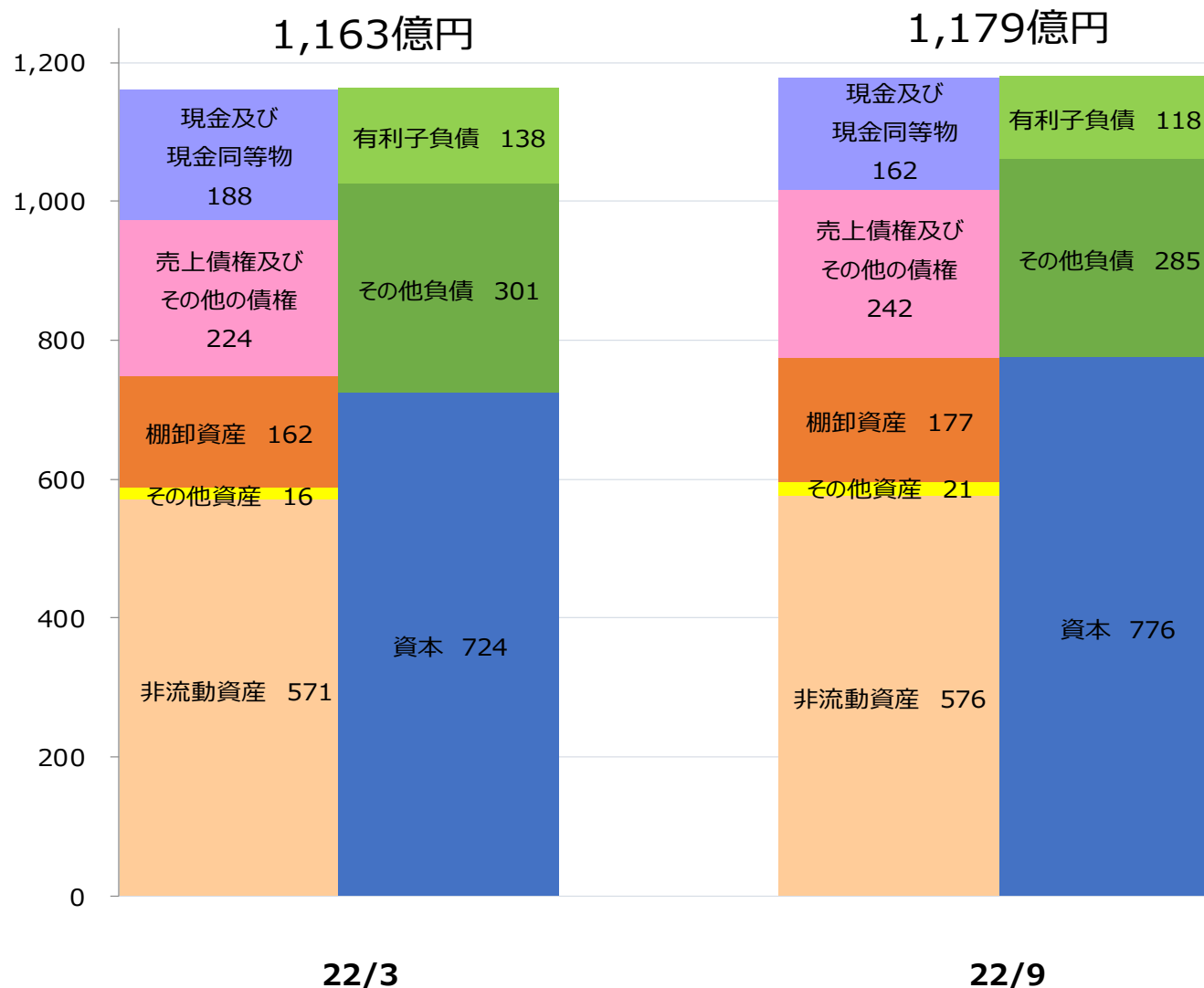
キャッシュ・フロー（CF）の推移

(単位：億円) 営業活動 投資活動 フリーCF



連結財政状態計算書

(単位：億円)



資産

- ・有利子負債の削減に伴う現金及び現金同等物の減少
(△26億円)
- ・増収に伴う売上債権及び棚卸資産の増加
(+33億円)

負債

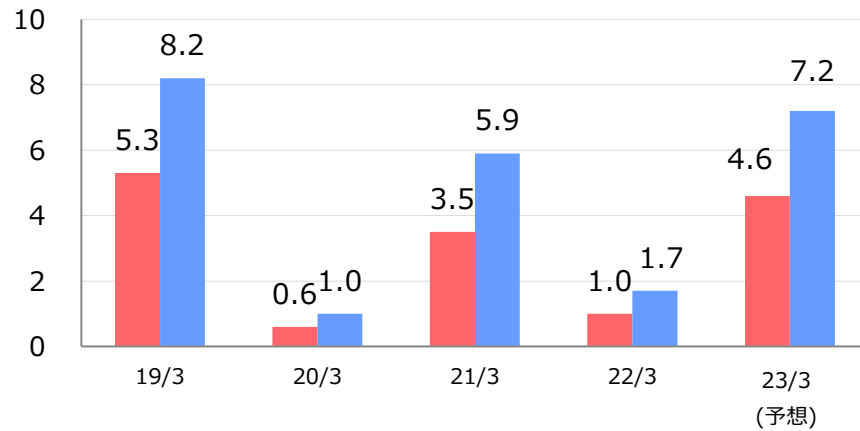
- ・有利子負債の削減
(△20億円)

資本

- ・利益剰余金の増加
(+23億円)
- ・為替が円安で推移したことによるその他の資本の構成要素の増加
(+31億円)

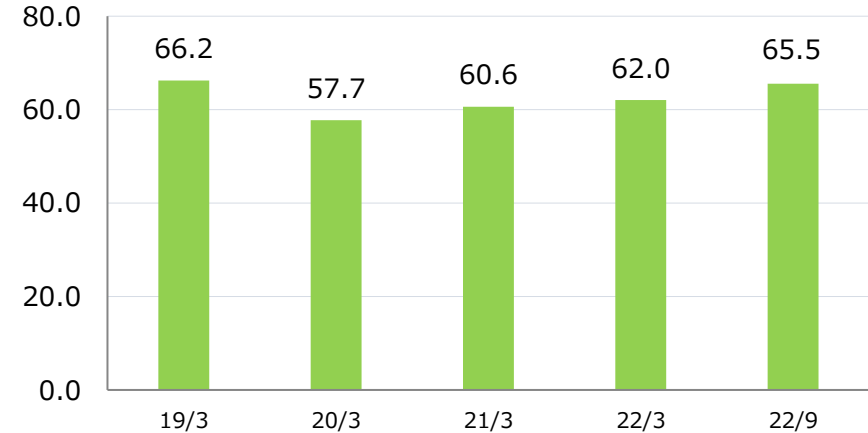
ROA / ROE

(単位：%) ROA ROE



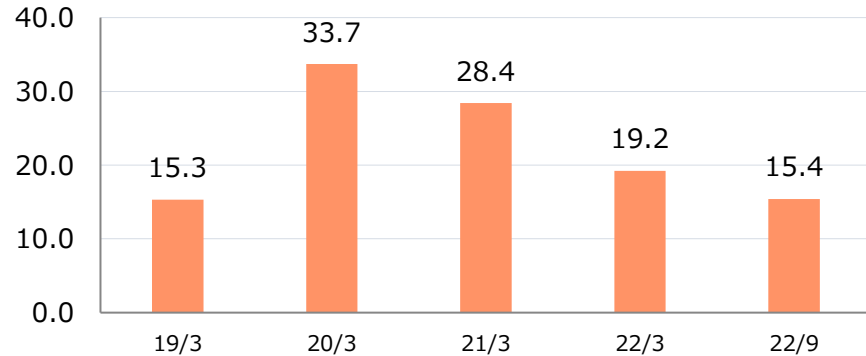
親会社所有者帰属持分比率 (自己資本比率)

(単位：%)



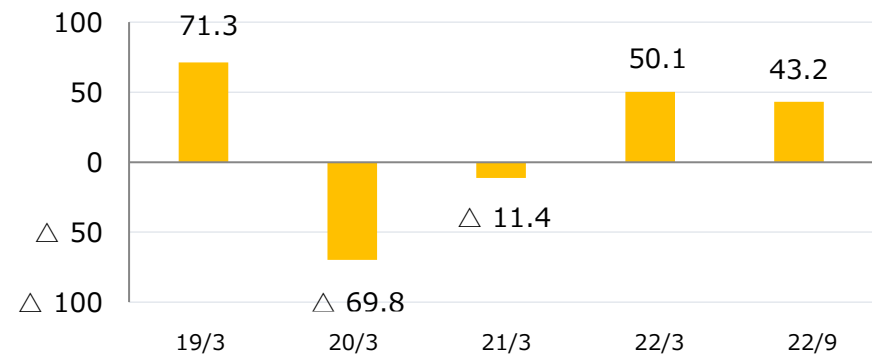
D/Eレシオ

(単位：%)



ネットキャッシュ／純有利子負債

(単位：億円)



主なトピックス

2022年	4月	<ul style="list-style-type: none">● 吉井 満隆を代表取締役会長、植野 富夫を代表取締役社長とする新経営体制を発足
	5月	<ul style="list-style-type: none">● 2050年カーボンニュートラル実現を目指した目標を設定● 「自己株式取得に係る事項」の決定● 「ミスターシルキーコート®」を販売開始
	6月	<ul style="list-style-type: none">● 「2022国際食品工業展（FOOMA JAPAN2022）」に出展
	7月	<ul style="list-style-type: none">● FOOMA JAPAN2022の出展ブースを再現したバーチャル展示会を開設
	8月	<ul style="list-style-type: none">● インド子会社に太陽光発電設備を導入● 10月受注分からの製品価格改定を公表● 「CSR報告書2022」を発行



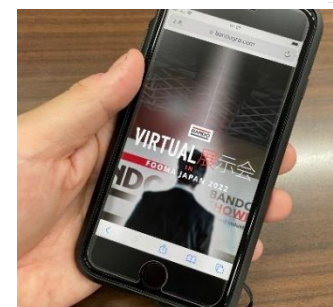
(右) 代表取締役会長 吉井 満隆
(左) 代表取締役社長 植野 富夫



ミスターシルキーコート®



FOOMA JAPAN2022



バーチャル展示会



インド子会社に導入した
太陽光発電設備

Ⅱ. 2023年3月期 業績予想

2023年3月期 業績予想



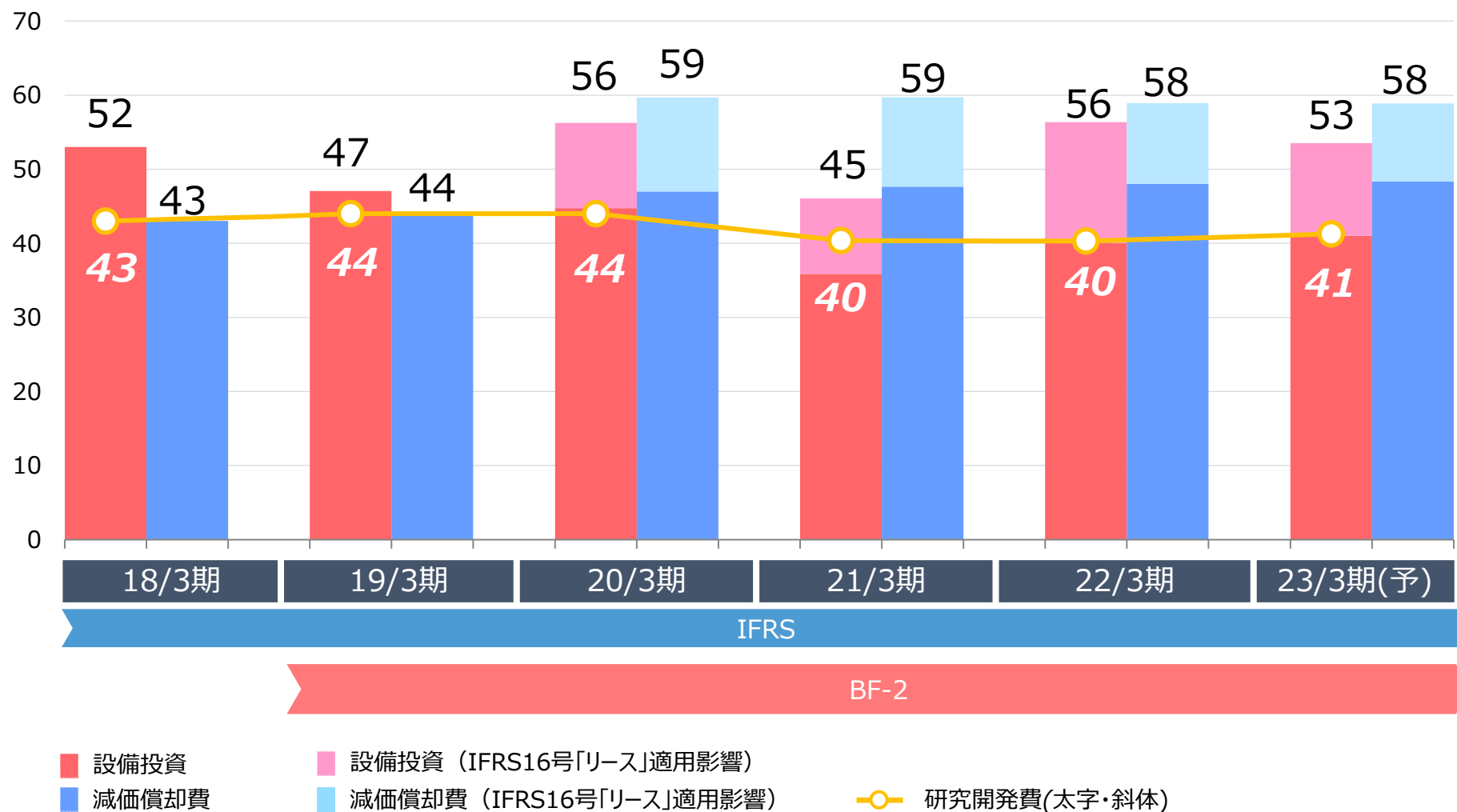
(単位：百万円、%)

	2022/3 実績	2023/3 予想				
		修正前	修正後	前期比（修正後ベース）		
売上収益	93,744	95,000	101,000	+7,255	+7.7%	
コア営業利益	5,880	7,000	7,000	+1,119	+19.0%	
営業利益	2,665	7,500	7,500	+4,834	+181.4%	
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,211	5,000	5,400	+4,188	+345.8%	
為替 レート	USD	113.05	120.00	135.00		
	THB	3.45	3.60	3.70		
	人民元	17.65	18.80	19.50		

➤ 為替が円安基調で推移していることを受け、売上収益・親会社の所有者に帰属する当期利益を上方修正

設備投資額、減価償却費および研究開発費の推移

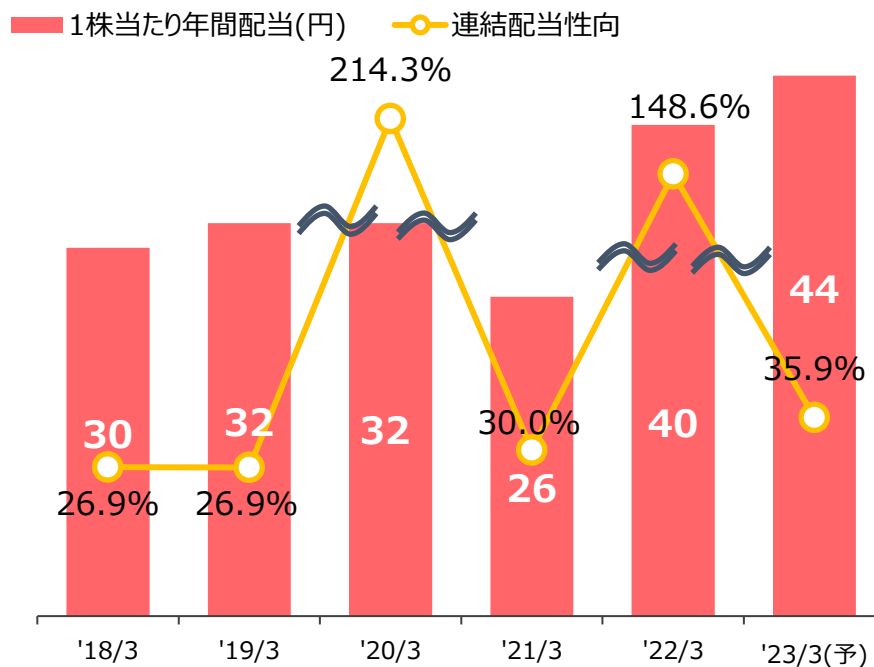
(単位：億円)



基本方針

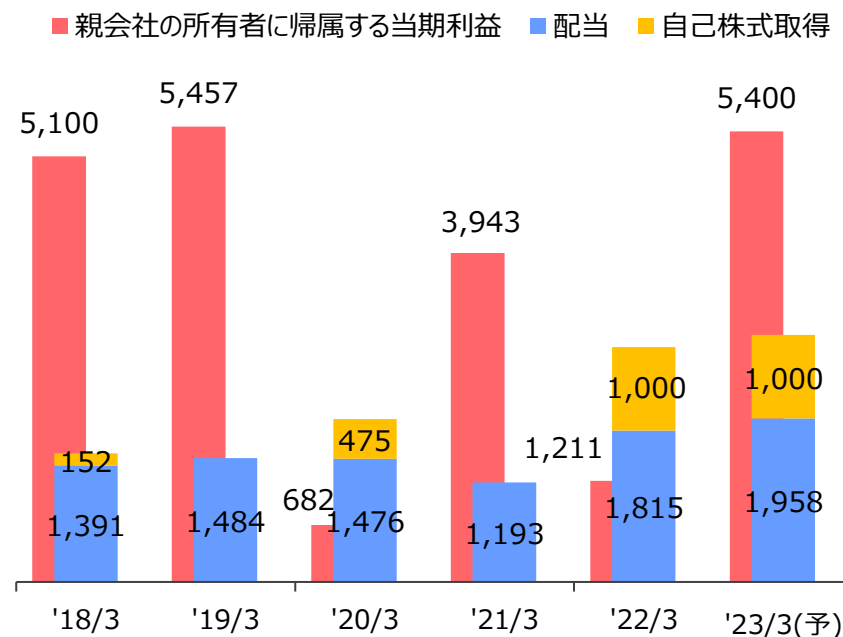
収益および財務状況に配慮しつつ、**当面の間、1株当たり年間配当金額26円を下限として、連結配当性向40%を目処に安定した利益配当を行うことを目標とし、利益還元の充実に努める。**

1株当たり年間配当・連結配当性向の推移



株主総還元の推移

(単位：百万円)



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。